

# 飼料作物奨励品種選定試験

## 1 情報・成果の内容

### (1) 背景・目的

市販されている飼料用作物の種子について、どの品種が鳥取県の栽培環境に適したものであるかは、種苗会社の栽培データだけでは判断しづらい。そこで、農家に推奨する「奨励品種」を選定するための基礎資料とするために、飼料作物の中でも県内で栽培面積の多い飼料用トウモロコシ及びイタリアンライグラスについて、3か年の反復試験を行い、生育特性及び収量性について調査した。

### (2) 情報・成果の要約

#### 1) 飼料用トウモロコシ

2013年度に3か年の試験が終了した2品種のうち1品種について、総合評価成績の平均点が標準品種を上回る成績であった。

#### 2) イタリアンライグラス

2013年度に3か年の試験が終了した2品種のうち1品種について、乾物収量の平均が標準品種と同等の成績であった。

## 2 試験成果の概要

### (1) 飼料用トウモロコシ

2013年度に3か年の反復試験が終了した2品種（‘スノーデント115ポラリス’ ‘KD777new’）の総合評価（収量性、耐病害虫性及び耐倒伏性等を数値化して評価）は、‘KD777new’ が3か年の平均点で標準品種を上回る成績であった（表1）。

表1 総合評価成績

		単位：点（100点満点）			
早生	※（標準品種）	65	84	86	78.3
	スノーデント115ポラリス	63	72	78	71.0
中晩生	P3470（標準品種）	77	74	76	75.7
	KD777new	77	74	82	77.7

※早生の標準品種：2011～2012年度は‘セリア’、2013年度は‘KD650’

このうち、収量性については、乾物収量、TDN収量ともに‘KD777new’が標準品種を上回っており、収量性に優れた品種であると考えられる（図1、2）。

これらから、‘KD777new’は本県の栽培環境に適した有望な品種であると考えられる。

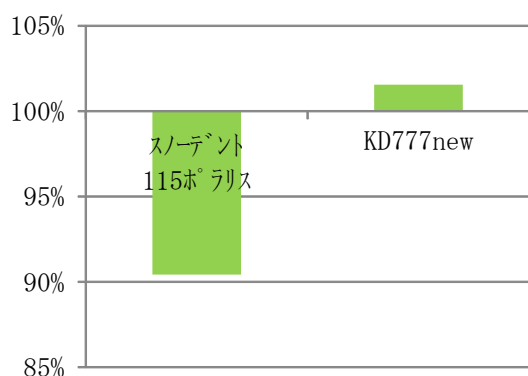


図1 乾物収量の対標準品種比

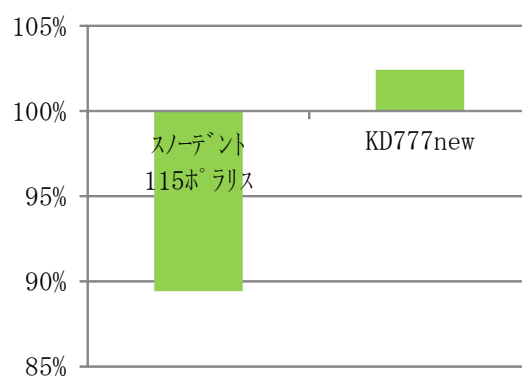


図2 TDN収量の対標準品種比

2013年度単年度の収量成績については乾物収量、TDN収量ともに4品種（‘P1543’ ‘スノーデント1221オ’ ‘P2307’ ‘KD777new’）が標準品種を上回った（図3～6）。

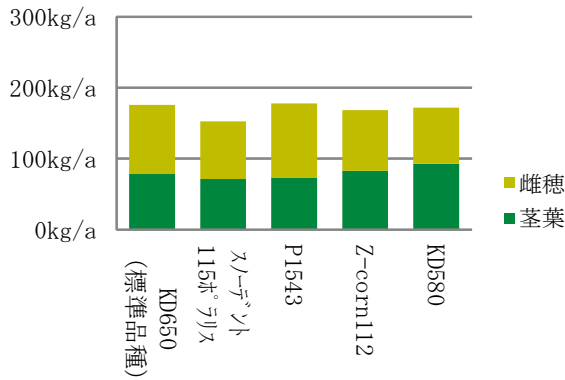


図3 早生品種乾物収量

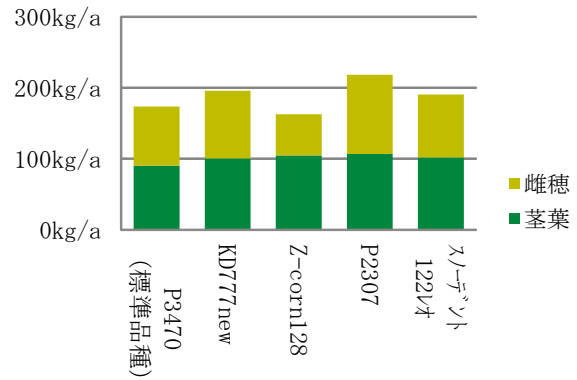


図4 中晩生品種乾物収量

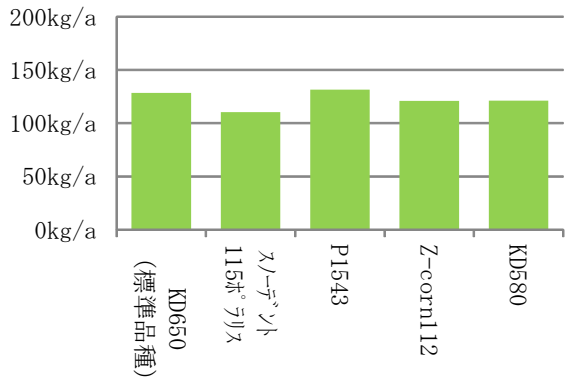


図5 早生品種TDN収量

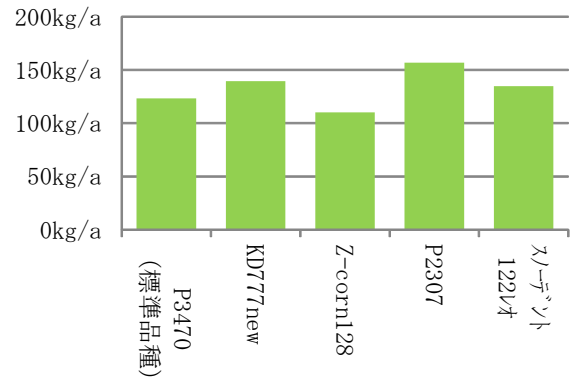


図6 中晩生品種TDN収量

## (2) イタリアンライグラス

2013年度に3か年の反復試験が終了した2品種（‘グリーンダッシュ’ ‘タチワセ’）のうち、‘タチワセ’の乾物収量の3か年の平均が標準品種と同等であった。（図7）。

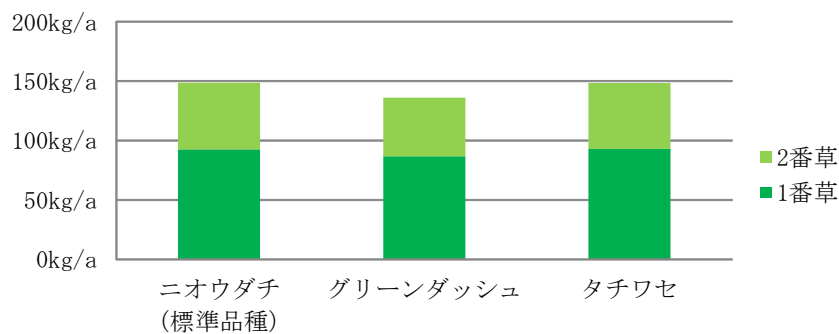


図7 乾物収量

## 3 利用上の留意点

今回試験終了した品種については、鳥取県奨励品種選定会議に諮り、県の奨励品種にするかどうか検討する予定である。

## 4 試験担当者

〔 酪農・飼料研究室 主任研究員 遠藤寿英 〕  
〔 室 長 吉岡 勉 〕